催し

8月・9月の展示
市役所2階ショーケース。文化協議会会員の作品展示。8月は陶芸（陶芸野歩）、9月は手工芸（ひまわり）¥無問狛江市文化協議会☎3489-6064絹山

日本民踊講習会
3日月・31日月・9月7日月・9月28日月13：00～15：00中央公民館。日本民謡踊りをけいこ¥無問狛江市文化協議会☎3489-8673FAX3488-5613西牧

スポーツウエルネス吹矢体験会
5日水・12日水・19日水13:50～16:05市民総合体育館持運動靴、軽装対高齢者定各回10人¥無申締切開催前日問SWF狛江支部☎080-5655-3158FAX3326-9229Mhh1019hidehiro@jcfc.net半田

心の病・家族相談
25日水（面接・電話相談）10：00～12：00カレーショップ・メイ。心の病についての相談を受ける対心の病を持つ当事者とその家族、市民¥無問狛江さつき会（家族会）☎080-9275-2090安藤

はじめての遺言相談
27日木10:00～12：00泉の森会館。遺言書のポイント整理定先着2人¥資料代500円申1日日～15日日問遺言書を考える会☎090-6480-3930北條

会員募集

リラクゼーションバレエ
毎木19:15～21:30中央公民館。クラシックバレエを基礎とした美容健康体操。見学自由月3,200円問Yu’sエッセンシャルバレエ☎3489-2251原田

外遊び
毎火10:30～11：30市内の公園・南部地域センター等。子どもとママが集まり公園遊び¥4月～9月400円、10月 ～3月600円問どろんこクラブMdogwood920@gmail.com渡邉

小学生バレーボール
毎水・木17:00～19:30、毎土・日時間不定（遠征、試合あり）緑野小学校。見学・体験歓迎持体育館履き、飲み物、タオル対小学1～4年生の女子月3,000円申事前問狛江セブン☎080-5376-8471山本

子どもの文化を考える
月1回中央公民館等¥無問子どもの文化を考える会 こまえ☎070-4135-6744FAX3430-2870Mkodomo_bunnka_komae@yahoo.co.jp星

合気道
毎金18:45～21:00・毎土16:15～18:30市民総合体育館。柔軟と基礎練習から技など持飲み物、タオル、動きやすい服装対子どもから定10人月2,000円入1,000円申事前問養氣會狛江合氣道倶楽部☎090-5197-1269中村

子どものための英会話
3歳～6歳・普通レベル＝7日金・28日金、年長～小学3年生・上級レベル＝21日 金15：30～16：30中央公民館。初心者歓迎持鉛筆、飲み物定先着各回10組¥1回1,000円申事前問English for EveryoneMenglishforeveryone20180122@gmail.com大幡

親子でダイコンとハクサイ育てよう

ＪＡマインズが農業体験の参加者募集

昨年の農業体験

JAマインズが農業体験「親子でアグリ」の参加者を募集している。

都市農業への理解と食農教育を目的として催しているもので、今回は猪方3丁目の畑でダイコンとハクサイを栽培して収穫する。

日程は9月12日日施肥・畝づくり・ダイコンとハクサイ植え付け、10月17日日除草作業・間引き、11月28日日収穫・片付けの3回（天候などで変わる可能性あり）で、いずれも午前中。初回は午前９時にJAマインズ狛江支店に集合。参加費は1人あたり110円（傷害保険代）。対象は狛江市内の幼児・児童とその保護者で定員10組（応募多数の場合抽選）。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止になる場合がある。

申し込みは8月17日月までに電話で申し込む。

申し込み・問い合わせ☎3488-3435JAマインズ狛江支店　経済指導部門。

「komaeの仲間」は市民活動団体の情報コーナーです。掲載申込は下記へ

「komaeの仲間」の原稿は市役所4階政策室または狛江市市民活動支援センター（こまえくぼ1234）で受け付けています。原稿は窓口へ直接持参するか、FAX、Ｅメールでお送りください。掲載ご希望の方は事前に登録が必要です。10月号の原稿の締め切りは8月31日月です。

●原稿の受付窓口●

狛江市役所4階政策室
受付＝午前8時30分～午後5時、
土・日曜・祝日休み
☎3430-1111 FAX3430-6870
ＥメールMwacco@city.komae.lg.jp

狛江市市民活動支援センター こまえくぼ1234
和泉本町1-2-34
受付＝午前10時～午後5時、
火曜・祝日休み

■「komaeの仲間」欄等に掲載した催し等は新型コロナウイルス感染症により中止・延期となる場合があります。最新情報はそれぞれの主催者へお問い合わせください。

●記事中の記号●
健康、スポーツ、文化、交流・地域、その他、補狛江市市民公益活動事業補助金事業、後市または市教育委員会後援、持持ち物、対対象、定定員、入入会金、月月会費、年年会費、¥参加費、無無料、申申し込み、問問い合わせ先、Mメール

タイムかぷせる50　狛江町から狛江市へ

証言＝**桑原三枝子さん**（80）、**柘植有子さん**（80）、**佐賀シセ子さん**（80）、**山田フク子さん**（80）、**丹野征勝さん**（81）以上多摩川住宅イ号棟、**須貝鈴美さん**（71）同二号棟

使えなかったダストシュート

二号棟建設予定地でゴルフの練習。後ろはイ号棟（写真提供・桑原三枝子さん）

◆イ号棟ができた昭和41年から住んでいます。結婚と同時に入居しましたが、夫と私の給料を合わせてようやく入居ができる基準所得になりました。幼児がいる専業主婦が多かったようですが、配偶者の給料が高かったのでしょうね。家賃は広い方が8,900円、小世帯向けは7,000円くらいでした。当時の民間住宅の相場は1畳1,000円だったので、団地は安かったですね。家族が増えて広い方へ移った人もいました。

◆入居前が6畳一間だったから、広いと思いました。当時は住宅事情が悪く、4畳半と台所とも言えない流しがついてるだけのようなところに住んでいる人が多かったので、ここは２部屋あり、テーブルが置ける台所もあってうれしかったです。ただ、風呂とトイレがくっついているのにびっくりしました。ドアを開けると便器と風呂のスペースがあり、最初はカーテンで仕切られているだけでした。脱衣所がなく便器の上にカゴを置いて脱いだ服を入れました。トイレが当時では珍しい洋式でした。子どもがそれに慣れたため、学校の和式トイレが使えず困りました。ベランダに洗濯機を置いていましたが、当時の洗濯機は二槽式で脱水の音がうるさく、排水の音も聞こえるので苦情が来て夜の洗濯は遠慮するようになりました。ダストシュートが付いていて最初はごみを袋に入れて使っていましたが、下に落とすと袋がはじけてゴミが散らばり、掃除当番の時はすごく大変なので、すぐに使用禁止になってしまいました。

◆団地入居の初めの頃は、現在駐車場になっているところに広場があり、生鮮食品から洋服までいろんな露天商が雨の日を除いて毎日、午前10時頃から夕方まで来ていました。バザー会場みたいで、ほとんどそこで買い物をしてました。それ以外の買い物は国領まで小さな子や赤ん坊を連れて歩いて行ってました。調布側に高層住宅が建てられた時に郵便局やスーパーができて便利になりました。しばらくして狛江ショッピングセンターの商店街ができましたが、初めはなかなか店が入らなかったみたいです。

◆入居当初は調布駅行きのバス路線しかありませんでした。終バスが早かったので、遅くなると国領駅から相乗りタクシーや白タクを利用しました。団地内なら どこでも100円だったと思います。夜遅いとわが家がある建物が分からず迷子になったり、隣の階段を上ったこともあります。

◆多摩川や空き地があり、慈恵医大第三病院も近いので、子育てには環境が良かったです。ただ、同世代の子どもが多く、幼稚園に入れるのも苦労しました。小学校も児童が多くて、うちの娘はプレハブ教室でした。

◆47年に結婚して夫が住む団地に来ました。道路を挟んですぐ前の多摩川は、風向きによっては川の嫌な匂いがしましたが、49年の多摩川水害の後から次第に川がきれいになり匂わなくなりました。その年の多摩川水害時は、多摩川住宅もくるぶしぐらいまで浸水しました。当時3歳の娘がその水でバシャバシャと遊んでいたので叱ったことを覚えています。

◆市に昇格してから北多摩郡と書かなくてよくなりましたが、他県に住む兄は市になったことを知らず、手紙の宛名にはしばらく北多摩郡狛江町と書いてきました。電話は回線の割り当てが少なかったためか、1本の回線を２軒で使っていましたが、一方の家で使っていると、電話が通じず困りました。市になった頃に1軒1回線になったようです。狛江市なのに市外局番が03ではなく、042なのが、少し複雑な心境です。

●市制施行50周年を迎える狛江市。昭和45年頃の街の様子や暮らしを市民の証言や写真でつづります。

スポット

狛江国際友好クラブ

狛江国際友好クラブ（藤井克美代表）は、異文化の勉強と英会話力の養成をめざし、昭和53年に発足した。毎週土曜日の午後に中央公民館または西河原公民館でカナダ人の講師を招き、４～５人ずつA（午後1時～ 2時半）とB（午後3時～ 4時半）の2グループに分かれて英会話を学んでいる。現在の会員は狛江在住の男性3人、女性7人の計10人（定員22人）で、50 ～ 70代が多い。年齢や英会話力に関係なく少人数でなごやかな雰囲気で学習に取り組んでいる。

講師（左から2人目）から英会話を学ぶ会員たち

平成14年から講師を務めているクララ・バーンバウムさんは在日32年で日本語も達者だが、学習中は基本的に英語のみ。テキストやプリントを使うほか、会員が自分でやりたいことを提案することもある。英会話の学習だけでなく、クララさんが訪れた国の話のほか、外国の文化や習慣などを聞いて教養を深めている。

新型コロナウイルス感染症の影響で4月と5月はZoomを使ったオンライン学習だったが、6月第2週から中央公民館での対面学習を再開。手指の消毒、マスクやフェースガードの着用など、感染拡大に注意しているという。月会費4,000円、入会金無し。連絡用のEメールアドレス（携帯メール含む）が必要。見学は事前に申し込み。

問い合わせMkatsfujii@outlook.com藤井さん。